

# 1 森林と文明とのかかわり

## Point

人類の祖先は森の中で暮らしていました。4大文明の地は、豊かな森林と大河のある豊かな土地でしたが、森がなくなつて滅亡してしまいました。森林は人類の生存条件なのです。

### 人類の祖先は森の中で生活していた

ヒトの祖先がチンパンジーの祖先と分かれたのは、600万～700万年前だといわれています。いまのチンパンジーやオランウータンが森の中で暮らしているように、私たち人類の祖先も森の中で暮らしていました。獣や鳥を捕え、木の実を集め、川や湖沼で魚を獲って、命をつなぐ食料としていました。樹木の皮や葉で夜露をしのぐ小屋を建て、小枝や葉を拾って燃料にしていました。森林は食料や水を得る場であり、生活資材を調達する場でした。狩猟採集の場である森なくして、人類は今日まで生きのびてくることはできなかったのです。

文明が発達してくると、人類は森を開墾し農地に始めました。人類にとって有用な植物だけを家の周りの畑で栽培して増やし、役に立つ動物だけを飼いならし始めたのです。森林を切り開き畑にして、そこで作物を栽培する「農業」の始まりであり、家畜を飼養する「牧畜」の始まりでした。

環境考古学者の安田喜憲氏は「日本人は森の民」だったと強調しています。

### 4大文明は森の消滅とともに滅亡した

メソポタミア文明、エジプト文明、インダス文明、黄河文明を「世界4大文明」と呼びますが、いずれも大きな河川が流れ、かつて上流には広大な森林が広がっていました。森林は食料、水、燃料、木材を供給してくれる貴重な資源の宝庫だったのです。その資源を活用することで文明は栄えました。食料生産の場である農地は、森林を切り開いてつくりましたが、その上流に残っている広大な森林から流れ出る水が、豊かな農地を育ててきたのです。しかし、人々が際限なく森林を開き、木を切り倒してしまうと、土地は砂漠化してしまいました。しかも、水源林がなくなって水が不足し、人々の生活に不可欠だった薪という燃料もなくなり、建築用材も調達できなくなってしまいました。森林を失い豊かな農地を失った「不毛の地」で人々は生きていくことができず、文明は滅んでしまったのです。

### 森林は人類の生存条件である

植物は、太陽の光と、土壌中の水と、大気中の二酸化炭素で炭水化物を合成します。この光合成を通じて、植物は酸素を発生させ、炭水化物からさまざまな有機物をつくっているのです。これが食物連鎖のおもとであり、地球上のあらゆる生命体のエネルギーになっているのです。

宇宙の中で地球に生物が生存できるのは、空気（酸素）があり、水があって、植物が光合成できるからです。生物が生きていける空間をバイオスフィアといいます。「生存圏」とか「自給自足圏」と訳されることもあります。祖先が森の中で暮らしてきた私たち人類にとっての生存圏は、「バイオ」すなわち森林のある地域です。森林は文明を勃興させただけでなく、人類の生存条件でもあるのです。地球温暖化で人類の生存基盤が蝕まれようとしているいま、人類を救ってくれるのも、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）など温室効果ガスを吸収する森林なのです。

私たちが森の中に入るとほっとして癒されるのは、森の中で暮らしてきた人類の祖先のDNAが受け継がれてきているからではないでしょうか。

バイオスフィア  
Biosphere 1990年代に米国アリゾナ州で「バイオスフィア2」の実験が行われた。巨大な閉鎖空間で人工的な生態系（生存圏）を構築する試みだったが、酸素不足や動植物の死で実験は失敗した。



持続的農法  
アマゾンの先住民は焼畑農法で森林と折り合ってきた。必要以上に焼き払ったり切り倒したりせず、持続可能な農法に徹していた。



森林破壊  
肉用牛の放牧地を造成するため伐採されたアマゾンの熱帯雨林（四角くなっているところ）。人類は森林を失って滅びようとしているのだろうか。

#### 「森の民」

「1万3000年前に始まる縄文時代は、日本人が森の時間に支配され暮らし始めた時代だった。森の中の縄文人たちの暮らしは、1万年以上もの長きにわたって続いた。その長くて遠い過去の記憶が、私たち日本人の遺伝子の中にインプットされていないはずがない」（安田喜憲＝「森の日本文化」新思案社）